



高次脳機能障害

—見えない障害への理解を深めよう—

慶應義塾大学予防医療センター 特任教授 三村 將

企画：
日本医師会

No. 579

高次脳機能障害とは

高次脳機能障害という言葉は一般になじみが薄く、わかりにくいですが、脳にダメージを受けて、さまざまな認知機能や行動に影響が生じた状態をさします。単純な知覚障害や運動障害とは異なるものです。主な原因には、^{こうそく}脳梗塞・脳出血といった脳血管障害や、交通事故や転落などによる脳外傷が挙げられます。病気や事故の後、急性期を過ぎて、意識もはっきりしてきてから、さまざまな「高次脳機能」に異常が見られるのが、高次脳機能障害です。

どんな症状？

代表的な症状は、「注意障害」「記憶障害」「^{すいこう}遂行機能障害」「社会的行動障害」の4つです。注意障害では、ぼうっとしていたり、注意力が散漫になったりします。記憶障害では、最近の出来事が思い出せなかったり、新しいことを覚えられなかったりします。遂行機能障害では、料理の手順がわからない、買物がうまくできないなど、日常の家事や仕事に支障が生じます。社会的行動障害では、対人関係がうまくいけなくなったり、衝動的な行動をとったりします。

注意障害



記憶障害



遂行機能障害



社会的行動障害



対応と支援

まずはこのような“見えない”障害があることに、本人や家族、周囲が気づくことです。高次脳機能障害者は、障害者総合支援法に基づくサービスを受けられます。全国には支援拠点機関や支援コーディネーターが配置されていますので、心配なことがあれば、適正な評価や対応のために、医療機関や支援拠点機関*に相談してみましよう。

*：国立障害者リハビリテーションセンターのWebサイトに、全国の医療機関や支援拠点機関が紹介されています。「高次脳機能障害相談窓口」で、検索できます。

日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



健康ぷらざ
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。